

人生の書『共産主義における「左翼」小児病』に学ぶ

第12回

四国ブロック

今こそ私たちが一歩踏み出し大衆の中へ

司会 (吉田) …今回でこの講座も最終となります。革命をめざす私たち労働者階級がなすべきこと、担い手としての構えなど、集大成となる議論です。

【追加】

四、ただし前提からひきだされたまちがった結論

五、

ヴァインコプの手紙

果てしない道のり

司会 (吉田) …では追加後半の第四節

に入ります。ここからは徳島県協の大西さんが担当です。この後半部分をレポートしてみても、まず率直に思ったことなどありますか。

大西…労働者や農民全ての者に教育をし直して、共産主義的な考え方まで持つていくという大変な作業と比較した場合に、機能していない議会に参加することが意味のないものであると言つて放棄することでは、どうしてプロレタリアート独裁を実現することはできないということ、その意味はよくわかりましたが、身近で言えば地元の市議会では、労働組合が送り出した組織

内議員が数人いますが、議会のなかでは少数であつて、いくら正しいことを言つても実現しないというようなどころを見ていると、プロレタリアート独裁なんてものは、途方もないようなものに思えて、道は険しいなど。しかしこの一見無謀で、意味のなさそうな議会での地道な訴えは、少なくとも誰かが聞いている、また気付けるといふ意味では、大変だけれどもやり続けるしかないし、そうしなければ社会は変わらないのだと感じました。

司会 (吉田) …ここではソビエト権力ができた後のことが書かれています。

◆ みんなの学習講座



講座最後のレポーターは大西さん。道切换しくとも社会変革に展望を持たれたレポートでした。

社会主義や共産主義への道のりです。それが地道に原則的な運動を根気強くやり続けることであると。しかしそれには多くの困難がある。最近では困難にぶつかるとできないということに帰着してしまいがちですが、それを超えることが必要であるということだと思います。疑問点などありますか。

情報拡散のために為すべきこと

高開：ジャーナリストの活動というのがありましたけども、この時代記者のジョン・リードが書いた記事の影響が拡がっていましたが、レーニンはその意識していたのでしょうか。

司会（吉田）：ジャーナリストとしてジョン・リードの影響をどう受け止めたかということですが、ここでのジャーナリストは個人ではなくて雑誌やパンフレット、ビラなどを用いて宣伝、扇動、組織をするジャーナリズムそのものをさすのではと思います。

大西：この時代は議会自体もブルジョア議会ですし、ジャーナリズムもブルジョア寄りですので、そこ自体も変えていくべき対象ではありません。

兼廣：大衆の意識を変えていくためには、議会もジャーナリストも上手く巻き込んで利用することが必要で、そのためにはそこから逃げるのではなくて

したたかに戦略を練らなければならぬということですかね。

司会（吉田）：そもそもジャーナリストとは何でしょうか。一般的には記者でしようけども。

竹内：大衆に情報を開示し、拡げる存在でしょうか。その意味では先ほど兼廣さんが言われたように、それを利用しない手はないように思います。

兼廣：彼らは情報を発信し拡げ続けることが活動なので、利用はするけれども最終はこちらの味方につけていくことが重要です。現代で言うところのマルクス主義研究者の斎藤幸平をテレビに出し続けて大衆のガス抜きをしていますよね。**須藤**：ジャーナリズムは世相が現れます。労働者階級が強い場合は労働者寄りの情報、支配階級が強い場合は資本家側寄りの情報が強く出てきます。例えば安保闘争の時には三池の力があり、新聞等でも民衆の思いが強く出て、子

どもの遊びでさえ「安保反対」とデモ行進の真似をしていた記憶があります。それは労働運動が根強くあつたからです。今は労働運動がほとんどないために支配者側の都合の良いことばかりが報道されますね。

兼廣…スト権ストの時に、国労がストばかりやって迷惑だと報道がされ続けていきましたが、いったんストが始まると、意外と好意的に情報を流して、不思議だった記憶があります。一定マスコミも情勢によって意識的に変わるのだなと思いました。

須藤…ジャーナリストが発信する情報を、労働者である我々もテレビや新聞ラジオなどを通して知るわけで、ここにも書かれているとおり我々の運動には欠かせないものであると。欠かせないものではあるんだけど、その情報を見極める力が必要ですね。

三木…今はまさに体制側についての報道しかされていませんね。

司会(吉田)…日本の報道の自由度ランキングは2024年にまた下がって70位となっていますね。

須藤…安倍政権で大きく後退し、より体制寄りになりましたね。これはまさに階級闘争です。最初にも言いましたが、世相が反映されるのです。

兼廣…安倍政権ではマスコミに対しての介入が強くなりました。

東口…高市総務大臣が停波すると圧力かけましたよね。確かあの時は「憲法9条改正に反対する内容」の放送を相対時間流した場合に、政治的公平性を欠くとして停波もあり得ると言いました。偏向報道しているのはどっちだという話ですよ。

大西…今考えても異常ですね。

より大きくなる困難とは

司会(吉田)…他に疑問点などありませんか。

村田…144ページで、「君たちは、自分がすばらしく革命的だと思っているかもしれない。ところが実際には…：闘争がちよっと困難に出会ったからといって、おそれをなしたのだ。しかも君たちが勝利をおさめると…：これらの困難はもつと大きく、はかりれないほど大きくなるのである。」とあります。勝利をおさめて、ブルジョアジーを倒してプロレタリアートが政治権力を握るにも関わらずなぜ困難が大きくなるのでしょうか。

司会(吉田)…まずこの部分の「君たち」というのは誰でしょうか。これはサンディカリスト、労働組合主義の方たちですね。労働組合活動だけしていれば良いということで、政治にも関わらない、議会にも参加しないというものです。労働組合は否定していませんが、レーニンには彼らにそれだけではダメだと言っているのだと思います。

須藤…議会主義を批判している彼らは

◆ みんなの学習講座

無政府主義者であり、サンディカリス
トの人たちです。彼らのような人たちは非常に激しい言葉を発します。職場闘争をしていても、資本や体制側が少し反撃に出るとすぐ驚いてあつという間に何も言わなくなるのです。プロレタリアートがブルジョアジーを倒して本当に政権を取った時には、大変な困難が待ち構えているのに、そんなことではダメだということ。ちゃんと歴史の法則を見て、大きな視野を持っておくべきだとレーニンは言いたいわけです。

司会 (吉田) …追加の第一節のなかでボリシェヴィキがメンシェヴィキとの闘争を続けた15年は長く苦しいものであったが、結果幸せであったというのがあります。まさにそれで、真面目にまっすぐにたたかいてを継続し、経験を積んできたということですね。
須藤 …インテリゲンツァ、いわゆる官僚ですが、官僚というのは忠実な事務

屋です。彼らはブルジョア教育を受けてブルジョア思想の中で育ってきています。しかし、私たちプロレタリアートが政権を握った場合は、ブルジョア思想である彼らを排除するのではなくて、いかに政権の運営に携わらせるかが重要です。そのためには私たちの忍耐もですし、目的意識をはっきりと持ち続けることが必要であるということ。ここでは言っています。現代では少し腐りつつありますが、社会を支えているのは議員ではなく官僚です。社会主義革命を起こしてプロレタリアートが政治権力を取った後も彼らには必要なのです。彼らを排除してしまうと国家は成り立ちません。

大西 …インテリゲンツァというのは官僚のことですね。
須藤 …もちろん学者もそうですし、医者や弁護士もそうですが、ここでは社会的なこと、政治のことを話しているので主に官僚のことを指します。大き

な意味でも社会を動かしているのは官僚なのです。

社会はすぐには切り替わらない

司会 (吉田) …昔、岡崎宏美さんを地元で呼んで講演をしていた際に「皆さんは社会が変わった際に何をされますか？」と聞かれました。僕は「寝ます」と答えました。当時は政治闘争や何やで忙しく寝不足だったものもあります。いわば願望のようにそう答えたのですが、今思えば岡崎さんが言いたかったのはこれかと感じました。もちろん世の中は竹を割ったようには変わりませんが、変わったと思えた後にもまた次のたたかいが続くのだなど。もちろん反革命をさせないようにプロレタリアートの政権を維持していくことや、資本主義の残りがすを徐々に排除していくこともあって、まさに大きな困難がさらに続いていくのだと学ぶ



毎回20人ほどの仲間が集まって学習・討論をしてきました。

ことができましたね。しかし労働者にとって有意義な困難です。

須藤…もう一つの困難は慣習です。制度や法律が変わっても人間が長い年月をかけて培ってきた文化や風習、慣習というのは、そう簡単に変えることは難しいのです。人間の頭はそう急には切り替えられないからです。

東口…地元の神社のお祭りも、コロナ禍には行われず神様も休んでもらって

いても特に問題もなかったのですが、コロナが明けたらすぐに復活しましたね(笑)。

須藤…つまり慣習というのは、資本主義的常識なのです。それを拭い去るには1年、2年では無理であり、長い闘争が必要です。143ページにそこら辺のことが書かれています。

司会(吉田)…一人でやめようと決意はできても集団になると難しいですね。東口…ブルジョアジーが倒されるまでは、またそのあとで小経営と小商品生産が全く消えなければ、ブルジョア的な環境、所有者的な慣習、小市民的な伝統が労働運動の内外からプロレタリアの活動を食い荒らすとありますね。長いたたかいになりそうです。

大西…まさに困難な道なのでしょう。

私たちがなすべきこと

司会(吉田)…ここで学習は終了とな

ります。これまで学んだことを受け、まとめとして最後に、須藤学長から私たちが今後なすべきことについて提起をいただきます。

須藤…新自由主義政策によって全世界が単一の市場となり、今や多国籍資本と世界の働く全ての人々の矛盾は膨れ上がっています。また、2001年の同時多発テロを契機として、アメリカの対外政策は大きく変貌。そこから数十年をかけて日本でも防衛力強化という名の軍拡路線が急速に進むことになりました。ロシアとウクライナ、イスラエルと中東諸国、アジア圏の緊張状態など、新たな世界大戦がいつ始まるのか混沌とした世界情勢にあります。

この資本主義社会で労働者がつくった最も民主的な組織は2つあります。それは労働組合と社会主義政党です。

しかし日本では総評が解体されて連合になったことで、世の中は極めて反動的な状況が作り出されているにも関

◆ みんなの学習講座

ならず、たたかう労働運動がなく、抗する動きが出てきません。また、今回の衆議院選挙では、野党が大勝したように見えても投票率が上がったわけでもなく、単に自公政権が支持を減らしただけで、野党が急激に伸びたとは言えない結果でした。よりぐっと右に寄ったという認識です。その上で私たちが何ができるでしょうか。レーニンのように情勢分析をしつかりやつた上で「今こそ大衆の中へ」と、大衆に学ぶ姿勢を強調しながら、反戦平和・民主主義擁護、非武装中立による平和、そういう運動を一人ひとりが自覚を持つてすすめ、大衆に訴えていかななくてはならないと思います。

現在、労働運動がないためになかなか次世代を担う若者が出てきません。今のままでは先細りしてしまいます。先日、2月号の『月刊まなぶ』の春闘特集企画で、10代から40代の若者へのアンケートを取り組みましたが、私の所属の香川県協で言えば、すぐに声かけできる範囲では、対象になる若者はほとんどいないのです。何とか11人からアンケートをいただけましたが、自分たちの運動がいかに後退しているかを表していると感じました。これが大きな課題であり、全国的にも同様の課題を抱えていると思います。

もう一つにはマルクス主義の考え方で、「人間は変わりうる」というものがあります。労働者が階級を自覚し、この社会を支えているのだという意識、この資本主義社会で労働者は主人公なのだということに目覚めるのです。それが労働者の歴史的な任務でありマルクス主義の神髄でもあるのです。

労働者階級の目指すものは社会変革であり、これは理屈ではなく思想なのです。つまりは、どう生きるかです。これだけ世の中が疲弊し、あらゆる職場で非正規労働者がほぼ半数を占めるなか、よく若者は社会や政治に関心が